



山本

物

か	た	し	る	母	乃	ち	の	守	り	ま
も	の	は	ふ	せ	し	し	の	景	系	
と	今	乃	と	し	あ	る	と	乃		
片	の	を	し	ち	も	む	け	る		
手	羽	破	の	美	乃	せ	け	は		

吾友及妹を鐘日し半き
二十五年たゆ方わすし
漸了るるをわすれな
り記るるをわすれな
あははははははははは

おも不人何事し
しこをわすれな
あ

解るるは
~~あ~~

空ひもたゞさで志ほせぬあやたしくもつゝさたがひの
の侍もむも飛りくハイヤ〜

○芭蕉麦林をばいれし草の集りほほのおおなく出さば又
そ集りにれし身を拾ひほり出せぬもあら。

○念^{ラス}園の廣き境ふせしほにあそびく多うほくと志げ
りしそむはぬるの原にむらさきのさハに侍らむをうに浅き
しほちやつうしが草の及ばさほし又草敷の白もあるかざらハ
正一けし日の偉^{ヌキ}日^{メテ}は経たさそと淡^{メテ}れま砂の数もそそむ
いとかなぬ事もしぞあ〜ぞた〜おなじおむむまにつく
た〜むもさハた〜も草敷をのぞく〜ほりのハ〜も又一字
はたがひも〜せり〜あ〜を〜を〜持〜るも〜つゝ。

○和歌の巻集とりおむる侍をうらむのふよせし歌はむも
撰し出せりよハ侍おやにやえそ〜りか歌の〜をむも〜の
持〜るも白はく〜の〜の〜。

○白をまつ〜松はついでハ〜あ〜を〜を〜みて〜中
志もこ定の〜ほにもあ〜も〜してあ〜人今若人〜
くはほ〜く〜か〜か〜〜さ〜に〜あ〜ひ〜む〜つ〜が
草のまに〜はほ〜を〜ほ〜の〜志ほ〜。

○白は詞にいほあり〜やえ〜ほ〜あ〜の〜び〜ほ〜たの〜
古〜書^{フシ}の^{モリ}採^ロあり〜を〜り〜び〜蓋^{フタ}雅^{コト}言^ハを〜て〜み〜を〜は〜詞^ハの
あや〜を〜る〜の〜の〜又^{ツチノ}字^ノに^{コト}読^ミり〜を〜〜あ〜も〜入^ハ〜ハ
白はよ〜て〜ハ〜た〜ひ〜め〜の〜見^ミむ^ク人^ヒを〜の〜び〜た〜ん。

番下	八	常陸常神事	八	縣召	八
粥杖	九	林善入	九	花燈夕	九
御忌	九	春風	後九至	作寒	十
春雪	土	春雨	後十一	霜	後十二
更と氷	十三	雪消	後十三	雪間	十四
氷煖	十四	下	十四	芥菜	十四
女萎	十五	款冬花	十五	木芽	十五
本芽漬	十六	甲切	十六	眼雲新葉	十六
芽獨活	十六	薄菜	十六	新草	十七
養心	十七	苦脯	十七	雞兒腸	十八
松花	十八	梅	後十八	柗	後二十至

喚起	後十三	鱧殘魚	廿五	乾雪鱧	廿五
二月堂行	廿五	釋奠	廿五	薪能	廿五
涅槃會	廿六	彼岸	廿六	治龍酒	廿七
氷祭	廿七	初午	廿七	臘	廿八
臘月	後廿八	燒野	廿九	陽火	廿九
紙	後廿九	鷹	三十	春鷹	三十
稚	後三十	岩天	後卅一	知更雀	卅二
字曾	卅二	末都牟之理	卅二	百千鳥	卅二
鳥尾	卅三	鳥巢	卅三	黃雀	卅三
歸雁	卅三	燕	後卅三	水鳥	卅四
鹿角解	卅四	猫	卅五	啓	卅五

糊 蝶 卅五
 蛙 後卅六
 寄居 卅八
 秧田 卅九
 蕨 後卅九
 春菊 四十一
 野蒜 四十一
 萍 卅二
 菊 卅三
 蜀葵 卅三
 連翹 卅三
 蜂窠 卅六
 田螺 卅七
 介寄風 卅八
 麻蔴 卅九
 筆頭 卅九
 菜花 四十一
 蒿首 四十一
 紫羅 卅二
 胡顔子 卅三
 辛夷 卅三
 山菜 卅四
 蕨 卅六
 鯉 卅八
 釋圃 卅九
 播種 卅九
 蒲公英 四十
 珊瑚菜 四十一
 蕪掘 卅一
 蜀葵 卅二
 芥菜 卅三
 迎春花 卅三
 掃枝 卅四

出代 四十五
 潮盡 四十六
 踏音 四十七
 順峰入 四十七
 長日 四十八
 鳥啼雲 四十九
 櫻棘鼠魚 四十九
 上藻 五十
 ッバナ 五十一
 薊 五十二
 芋種 五十二
 稚像 四十五
 硯梅 四十六
 舌生傳奇 四十七
 法花祭 四十七
 田原紀為鸞 四十八
 琴糖 四十九
 櫻魚 四十九
 紫花地丁 後五十一
 紫花地丁 至五十一
 木瓜 五十二
 樞 後五十二
 玉 五十二
 翻雜 四十五
 春霜 四十七
 御身杖 四十七
 煖寒 四十八
 麥鷄 四十八
 櫻貝 四十九
 少溪鱈 五十
 行花紫菜 五十一
 白頭翁 五十一
 裙帶菜 五十二
 櫻 後五十二
 玉 五十七

古今片歌明是集卷之二

目錄三

海棠 五十八

金棗棠 五十八
至五十九

石楠花 五十九

郁李 六十

採茶 六十

春夕 六十一

梨花 五十八

瑞香花 五十九

紫荊花 五十九

玉蝶 六十

梅新葉 六十

暮春 六十二

羊躑躅 五十八

木蓮花 五十九

芙蓉花 五十九

五加 六十

紫藤 六十一

古今俳諧明題集春部

年内立春

春のりをたいて惜むやとりのうち
 多しをうらやめるまやとりのうち
 まのうちのまやたりに水のま
 とりのうちに白の先まやうめれふ
 喚びよの粗率てなすふれうち
 三のうらまはまきりやりのうち
 ちき日は出て急ぐとりのうち
 児んよさびきさるやまぬうち
 然りて焼くまきり 福喜年

大和柳本 去路
 近江日野 去路
 加賀松代 素園
 伊勢山田 素園
 同 兔士
 江戸 破了
 肥後熊本 破了
 武蔵西谷 破了
 同 西羊
 同 巴臣

古今俳諧明題集卷之一

春のうしろ 鶯てんてん たる乃 菫まり
とーのうち 幸 鶯いさう 鶯けり
ちとーの 鶯へ 鶯こむ 鶯いさう
とー乃うち 鶯 鶯いさう 鶯いさう
小 鶯いさう 鶯いさう 鶯いさう
もう 鶯の 鶯てん 鶯てん

大坂 一 崩
江戸 柳 居
南 柳 枝
下 柳 青 藍
今 涼 傘

立春

浦の 鶯 ちどり と 鶯 びり 鶯いさう
日の うち と 鶯 けて 鶯いさう の 鶯鳥
げの くと 鶯 くら じ 鶯 ま 鶯いさう

伊 温 故 市
大 野 坡
大 野 坡

ま 鶯いさう 鶯 鶯 鶯の 鶯の 鶯いさう
た 鶯いさう 鶯いさう 鶯いさう 鶯いさう
お 鶯いさう 鶯いさう 鶯いさう 鶯いさう

加 鶯いさう 鶯いさう
武 鶯いさう 鶯いさう
雪 叩

福寿草

あ 鶯いさう 鶯いさう 鶯いさう 鶯いさう
あ 鶯いさう 鶯いさう 鶯いさう 鶯いさう
あ 鶯いさう 鶯いさう 鶯いさう 鶯いさう
あ 鶯いさう 鶯いさう 鶯いさう 鶯いさう

京 白 枝
安 里
西 羊
武 洗 雪
江 涼 傘
維 魁

出日と同年たり福壽延年

武小山 兔洲

新水記

彩のや 老とよきんて者あづ
こゝろのま日し 蹴梅うごいてや

武吉梅 凉字

屠蘇

屠蘇乃多々あまめしきもきくも

赤 元女

蓬萊

蓬萊や歳よとのりいぐどめ

上毛妙美山 三白

着衣始

神の座いより捨うり着衣始
屠蘇の香の痕へ熨斗まきそ始

江戸 淡臭
佐系 秀陽

試筆

文瀧本ハ我多死葉マ予ぐどめ
行ハ火汗もあうして予げどめ
多げれとのたつけて予ぐどめ

伊勢川 梅路
武中上 文東
し 路

少見比須いさえ

いとゆいづく人ハ走らうわらえいせ

左京 雲和
下毛形 百尋

無患文ふけさふ

あゝ文ふけさふしか買て死しうき
あゝ文ふけさふ紅かき袴はかまのかく
あゝ文ふけさふ指さ買かぬも疑うたがうき

上 汝
和 暢
一 氣

破魔やまりはまま

くまらまふふけけよよハハ乳ちをを持もちちるるががら

甲斐小笠原 不残

弓ゆ始いめめ

穿くるるししめめででくくららいいどどええ
是こががれれ光あららととせせららととどどめめ

近江膳下 昌房
青蓮

馬乗う始まめめ

糸いと始はままぐぐ根ねもも緊きぐぐぞぞー
ののどどめめママ梅うもも糸いと沫うよよつつりりッ
糸いと始はままママああてて 白ヒ袴タ馬シ

いせ山田 龜之
上毛境 茂畔
下毛足利 可考

糸いと始はままのの

糸いと始はまま見みががへへつつもも抱かののああとと

大坂 まさぬ

淫^{いん}妬^ど

い^いい^いの^の衣^え又^{また}つく^{つく}て^て口^{くち}を^を冠^{かん}

青^{あお}梅^{うめ} 巴^{あま}兮^や

穉^ち妬^ど

は^はき^きぞ^ぞめ^めや^や衣^いの^の風^{かぜ}も^もさ^さく^くじ^じ

武^ぶ中^{ちゆう} 席^{せき}固^こ

痛^{いた}妬^ど

賣^う妬^どや^や衣^いの^の風^{かぜ}も^もさ^さく^くじ^じ

日^ひ若^{わか} 此^{こゝ} 君^{きみ}

浴^ゆ室^{しつ}妬^ど

先^ま姦^{かん}一^{いつ}浴^ゆ室^{しつ}に^に衣^いの^の風^{かぜ}も^もさ^さく^くじ^じ

藤^{ふじ}子^こ志^し

三^{さん}の^の罪^{ざい}

衣^いの^の風^{かぜ}も^もさ^さく^くじ^じ

素^す因^{いん} 柳^{やなぎ} 居^い 未^ま了^{りょう}

妻^{つま}の^の罪^{ざい}

妻^{つま}の^の罪^{ざい}

去^こ替^{かへ} 沽^か 雨^{あめ}

傀^{くわい}儡^{らい}呼^{こゝろ}

笑よ寐てゑせぬ猫下俣俣師 皮上

狙公 さるまてー

布袂のほろりり七あやさるまてー
上毛前袴 黄牛
まゆ 笑林
備あ 東起
あぢ 笑洲

鳥逐 い

も逐や葉よまぶき形でな
ねは茶 三雅

小松挽 こまつ いま

いつの今日挽 松一々やむとら松
あぢ 破了
あぢ 吐雲

人日 にっ 七種

あーいこ鶴 遊々 柳葉沙
江戸 湖十
江戸 希因
江戸 祇巫
日 秋瓜
日 素園
日 一葉

古今集月道集卷之二

路^{カミ}の道きびう^{カミ}一^{カミ}此^{カミ}京^{カミ}や^{カミ}わ^{カミ}る^{カミ}つ^{カミ}
庵^{カミ}乃^{カミ}で^{カミ}小^{カミ}ね^{カミ}と^{カミ}た^{カミ}る^{カミ}の^{カミ}彩^{カミ}菜^{カミ}久^{カミ}乳^{カミ}
能^{カミ}く^{カミ}ぬ^{カミ}ぬ^{カミ}の^{カミ}あ^{カミ}る^{カミ}マ^{カミ}る^{カミ}乳^{カミ}味^{カミ}
能^{カミ}城^{カミ}の^{カミ}遊^{カミ}人^{カミ}の^{カミ}か^{カミ}る^{カミ}こ^{カミ}ろ^{カミ}れ^{カミ}の^{カミ}那^{カミ}
抱^{カミ}て^{カミ}出^{カミ}る^{カミ}笠^{カミ}の^{カミ}帯^{カミ}や^{カミ}彩^{カミ}な^{カミ}つ^{カミ}
袖^{カミ}いと^{カミ}ら^{カミ}と^{カミ}め^{カミ}て^{カミ}か^{カミ}る^{カミ}マ^{カミ}わ^{カミ}れ^{カミ}つ^{カミ}
舌^{カミ}ハ^{カミ}ち^{カミ}う^{カミ}の^{カミ}味^{カミ}の^{カミ}味^{カミ}の^{カミ}彩^{カミ}菜^{カミ}の^{カミ}味^{カミ}
も^{カミ}ち^{カミ}の^{カミ}味^{カミ}と^{カミ}あ^{カミ}る^{カミ}ぬ^{カミ}ゆ^{カミ}の^{カミ}彩^{カミ}な^{カミ}つ^{カミ}
道^{カミ}も^{カミ}し^{カミ}る^{カミ}の^{カミ}味^{カミ}の^{カミ}味^{カミ}の^{カミ}彩^{カミ}菜^{カミ}の^{カミ}味^{カミ}
聲^{カミ}通^{カミ}る^{カミ}あ^{カミ}る^{カミ}の^{カミ}味^{カミ}の^{カミ}味^{カミ}の^{カミ}彩^{カミ}菜^{カミ}の^{カミ}味^{カミ}

一音
涼^{カミ}帝^{カミ}
全^{カミ}
古^{カミ}山^{カミ}
雲^{カミ}里^{カミ}
双^{カミ}飛^{カミ}
晚^{カミ}九^{カミ}
雲^{カミ}郎^{カミ}
雞^{カミ}山^{カミ}
冠^{カミ}子^{カミ}
菘^{カミ}丈^{カミ}

厭^{カミ}も^{カミ}ま^{カミ}ぐ^{カミ}日^{カミ}本^{カミ}の^{カミ}味^{カミ}の^{カミ}味^{カミ}の^{カミ}彩^{カミ}菜^{カミ}の^{カミ}味^{カミ}
青^{カミ}く^{カミ}と^{カミ}雪^{カミ}と^{カミ}よ^{カミ}こ^{カミ}ま^{カミ}や^{カミ}乳^{カミ}な^{カミ}つ^{カミ}
か^{カミ}く^{カミ}による^{カミ}橋^{カミ}の^{カミ}味^{カミ}の^{カミ}味^{カミ}の^{カミ}彩^{カミ}菜^{カミ}の^{カミ}味^{カミ}
け^{カミ}紙^{カミ}の^{カミ}指^{カミ}の^{カミ}味^{カミ}の^{カミ}味^{カミ}の^{カミ}彩^{カミ}菜^{カミ}の^{カミ}味^{カミ}
二^{カミ}く^{カミ}め^{カミ}の^{カミ}味^{カミ}の^{カミ}味^{カミ}の^{カミ}彩^{カミ}菜^{カミ}の^{カミ}味^{カミ}
甲^{カミ}や^{カミ}も^{カミ}ま^{カミ}ぐ^{カミ}さ^{カミ}い^{カミ}年^{カミ}時^{カミ}の^{カミ}味^{カミ}の^{カミ}味^{カミ}の^{カミ}彩^{カミ}菜^{カミ}の^{カミ}味^{カミ}
袴^{カミ}履^{カミ}の^{カミ}味^{カミ}の^{カミ}味^{カミ}の^{カミ}彩^{カミ}菜^{カミ}の^{カミ}味^{カミ}
七^{カミ}粒^{カミ}や^{カミ}と^{カミ}あ^{カミ}る^{カミ}味^{カミ}の^{カミ}味^{カミ}の^{カミ}彩^{カミ}菜^{カミ}の^{カミ}味^{カミ}

青^{カミ}道^{カミ}
雪^{カミ}叩^{カミ}
白^{カミ}志^{カミ}
眠^{カミ}石^{カミ}
破^{カミ}了^{カミ}
白^{カミ}枝^{カミ}

福^{カミ}沸^{カミ}
福^{カミ}と^{カミ}う^{カミ}掛^{カミ}彩^{カミ}ひ^{カミ}ら^{カミ}雲^{カミ}の^{カミ}味^{カミ}の^{カミ}味^{カミ}の^{カミ}彩^{カミ}菜^{カミ}の^{カミ}味^{カミ}

大^{カミ}偶^{カミ}
倚^{カミ}舟^{カミ}

古今片歌明題集卷之一
杉^{ツツ}勝^{マツ}の多^{ニホ}のしもこー福^{ニホ}こー
壺^{ヒョウ} 天^{テン}草^{ソウ} 辰^{チン}

用^{ヨウ}花^カら^ラき^キ

押^{オシ}お^ホ戸^ドマ^マ我^ワん^ンよ^ヨハ^ハく^クく^クび^ビら^ラき^キ
物^{モノ}き^キしい^{シイ}の^ノ字^ジく^クく^クたり^{タリ}花^ハび^ビき^キ
花^ハび^ビき^キお^オろ^ロと^ト猫^{ネコ}の^ノ後^{ノチ}て^テ居^イる^ル
麦^{マク}林^{リン} 秩^シ父^フ金^{キン}崎^{サキ} 涼^{スズ}戸^ド

甲^{カウ}冑^{クウ}鏡^{キョウ}食^{シキ}割^カ カウウの

朱^シ纒^{マシ}の^ノ緞^{テン}も^モお^オろ^ロて^テか^カこ^コ割^カ
去^キ加^カ 李^リ 冠^{クワン}

帳^{チヤウ}釘^{テイ} チヤウ

情^{セイ}く^クら^ラマ^マよ^ヨり^リゆ^ユと^トち^チハ^ハう^ウと^ト成^{セイ}ん^ン
去^キ加^カ 如^{ニョ} 毛^{モウ}

み^ミ掛^ケ祝^{イハヒ} ミヅナ

居^イ溜^{リュウ}へ^ヘう^ウめ^メて^テ洒^サま^マや^ヤ水^{スイ}い^イと^トし^シ
ん^ンハ^ハお^オし^シと^トめ^メ礼^{レイ}マ^マ水^{スイ}い^イと^トん^ン
嫁^カの^ノま^マく^ク嫁^カや^ヤ水^{スイ}い^イと^トい^イ
一^{イツ} 涼^{スズ}宇^ウ 幾^{イツ} 曉^{キョウ}

畚^{ヒン}下^カ ヒンカ

か^カぐ^グん^ンと^ト弁^{ベン}の^ノき^キこ^コ畚^{ヒン}お^オろ^ロ
行^{ユク}厨^{チュウ}の^ノか^カく^クも^モ深^シく^クり^リ畚^{ヒン}お^オろ^ロ
人^{ヒト}の^ノ目^メへ^ヘ茗^{メイ}ち^チか^カま^マく^クび^ビお^オろ^ロ
安^{アン}里^リ 祇^キ 巫^ウ 久^{キウ}

下るよりよるが光り 一番おろり
蜘蛛もあぶさるるぬこころえ番おろり
志まよるときはあまのつらやよこおろり

泣守
原礼

常陸常神幸 いそらびのぞと

泣の徳ハ寡婦で居り常陸常
を侍常おもしろぬ 凡そ神ごころ
いそら幸おもしろいあまのつら

東怒
涼守

縣召 あざ

馬よまるとぞ知ぬ顔なりあくる

西羊

土益と對の顔あまあぐる

楚岫

粥杖 あや

粥杖やりのりもよめつくも

梨明

林著入 あや

やふりや あや 怖るくろなる
やぬい あや 行 あや 遠 あや 又 あや う あや ぞ あや ら あや し
る あや ぶ あや 入 あや マ あや 先 あや 小 あや ある あや 草 あや 搦 あや て あや り あや っ
や あや ふ あや り あや っ あや や あや ち あや と あや り あや っ あや して あや 日 あや の あや も あや き
や あや ふ あや り あや っ あや や あや 塘 あや の あや 木 あや 氏 あや し あや 吹 あや へ

泣守
白枝
古由
柳居

ちしきぐ一子少きささく乳
崎くのまるともるれぬささ
奥のまゝ尾だうり解てささ
君せし紙衣一もりのぬさ
喚むるまゝは僕まゝささ
結み奥のまきハつて竹さ
水ハマのど砂さかひのる
松骨の新樹枯て 竹さく

木 吾
西 羊
其 笛
鳥 舟
日 北
李 北
祇 翠
涼 袋

春雪

是まぞうこれまぞうとてその雪

支 共

兼の雪でかゝるや なるのゆき
京へ雪の時ハ夏なヤさるるゆき
よりやよハ是とおくありその
中天下増さるゆきハゆき
まそのないなしのる士マその
掃よせて一日おくヤさるのゆき
ましまが後さうりしてけさの
おハ雪さうりぬさうりその
心探バくり探さるるゆき
横も探さるるやさるれゆき
道絶て又山さやくれのゆき

屋 四 藤
柳 六 柿
桐 原
去 政
一 萬
双 飛
山 入 楚
画 州
令 阜
林 阜
涼 阜

古今和歌集卷之十一

春の糸いとくくはつて枝えだももののも
このほぐぐおおほほてておくくママののも
長なが入いりりてて月つきままがが雲くも一ひとももののも
浮うちちららふふ者ものままとと破やぶママののゆゆき

春雨はるのこしめ

春のや啼なぎぎよよ飛とひひかかんんここき
直なよよいい昆こ布ふののちちりりややももののゆ
脣くちびるのの乾かわくくたたママももれれののああめ
夏なつのの脱ぬぎぎ着きののぬぬれれややももののゆ
裾すそ常じょう菜さい一ひと湖うみのの溢あふ出でママももののゆ

涼帝
一史丸
一氣

百舟
一士風

冠子
全尺
如平

ままるるやや門かどハハ柳やなぎののハハきき 藤ふじ
ままぬぬママ差さししささりりるる後のちののああめ
ままぬぬわわのの新あらたららぬぬ海うみれれおおし
姿すがたままのの極たぎよよ敷ふききららややももののゆ
秋あき田たへへつつししゆゆららももののああめ
おお麗うつくしのの巴へい器きももややままののああめ
ももぬぬやや柳やなぎのの肩かたれれももてて片かた
ねねらら芽こぼととおおしし菴あまママももののゆ
浮うちちららめめてて柳やなぎ乾かわ日ひははちちららううららうう
ままぬぬ國くにのの心こころ探たづねねななりりままののああめ
ままぬぬママままががももままのの突つぎぎのの

李趙
上毛海
芭叩

西羊
武王
保井

宇多
下毛足利
漢遠

太阜
兔士

七尾
用工

おしとおく双ハシキーものぬ
船の姿をそとめもるの白
里又えて走らぬ人マもるれ
もるマ走りものハ福来 全

十二

斗白
柳水
涼院
全

飛謁かき

湖と富士うりれ 霧うれ
棧船夫のちぎれておとる霧うれ
霧のそといてとまるおれいれ
ほろろびて埃のそとる霧うれ
をいのが田口そとるうれい

下徳台市場
矢海
令辰
里朝
双飛
一江
大坂
富天

杉と出て花一涙うむかれいれ
ゆると後何るおれいれ
朝もも雲丁のふ入おれいれ
いとらば、おしとおく霧うれ
素久みから城吹雪て霧うれ
からぐと山をうづるかまうれ
もるまもほあけいれ霧うれ
辛味ハ雲のよまうやうれいれ
どのおのころもいれ霧うれ
年時よこよこ穂の出て霧うれ
松花の傲田ハ入しておれいれ

上毛老
嵐雪
仙竹
雲郎
七尾
亞矢
深城
希因
安里
相
西
涼院
全

鶯ハ志ラド 魚の氷のぼるす

魚上氷 うをこぼる

武公山 浪

雪消 ゆき

木のそらにあくさゆしてきけり
舟橋のよハいとさききけり
山みして見といこるハきけり
瘻ひらつて柳もきけり
団うさつ 忽とる ゆきけり
是日くちの出てもきけり

浪 武公山
李 武公山
源 武公山
杜 武公山
山 武公山
志 武公山

是でよむ娘あも既もきけり
飛くよるはよきけり

茶友 は
洗雪 ま

雪回 ゆき

喚起 ウケ 息吹 イキ けてきけり
山道 イチ 目鼻 メ のおきけり
静 シズ 一隻 イツ 何 ナニ てもやらぬきけり
ふ フ 其 ソノ の チ 孝 コウ よ ク の キ 出 デ けり
抄 スキ 絶 キレ の キ 一 イツ 冊 ソク みる

太年 タイネン
祇丞 ギジョウ
百舟 ヒヤクフネ
一巻 イツマキ
写本 シャホン

水煖 ミヅグメ

ぬるまじせようつる清るマ水の上
居ぬるまじ暖むハアとして水のく

上毛室田
之文
下毛本
思志

下萌 シエ

下萌マ上ウカゼハ今マ麦 カクマ
岸の草解るほどづ カクあてぬる

下毛小
魚毛

芥菜 シエ

我 シエハ泥 シエの遊る 根芥 シエハ
蒿 シエの解るほどづ カク根 シエる乳

文草
涼市

女萎 シエ

を地の色 シエハ袋 シエマヤ シエころうマ

武山
洲

款冬花 シエ

脱 シエハ又 シエは師 シエなる 款 シエマ シエふ
和 シエハハ シエえあげて シエり シエ款 シエマ シエ花
枝 シエ道 シエマ シエが シエお シエろ シエよ シエきの シエた シエう
美 シエ涼 シエい シエ袂 シエと シエあ シエる シエマ シエよ シエま シエれ シエぬ
ま シエも シエま シエぐ シエや シエか シエづ シエく シエあ シエき シエろ シエく
わ シエら シエる シエ凡 シエよ シエひ シエつ シエマ シエあ シエま シエの シエく
あ シエく シエよ シエま シエれ シエの シエま シエよ シエま シエれ シエく

涼市
冠子
古路
美川
大和神
西羊
洗雪

茅菴の完山依カイヤ一サまきれク

十四
四道

木芽このめ

又石よ成換ナリちふて 木芽このれ
日あツりを見つめて痛む木のめれ
木モリ食シキの秧田ナシ言まま木の芽のれ
ふて白よアまちまれが木のめれ
ぞカまち振ナて志るけし木のめれ
多のまれ傍ガくまる木のめれ
花とほれ紙ヨ綿リあらる木のめれ

戸大至
志多里郷
系免洲
依原の昇
下毛長尾
深城

木芽この浸ツリ

浸シホまのくま遊ヤ 木のめづけ
舌シタうちの児チをぶよまる木のめ浸

尾根
杉前
白陀人

甲折ハヤク

やいり木のまこう遠ナみてあらる木
あ方へ土あらる木のめれ
まハりる一口あくあらる木のめれ
飛ヒく時春のままる木のめれ

上毛深江
深城
深洲

古今所歌別集卷之二

薑心

くもろや 小多の脛の儂うぬ
くもろや 浅湯の家を回てうら

雙飛
露沾

苔脯

ちのの 苔と拾ふや 苔脯のうら
海苔やぬるて 野下の浮とる
のげきや 海がて 苔脯のうら
乾あげて 露とまろく や極のう
海苔や 養ふ 乾いてし ぼあまき

破了
上毛篠 九 鼻
木 節
上毛篠 其 梅

ちのの 苔脯の 乾ある 夕の光

雛兒腸

うきまに いたれて せまるのよめ
あしむけて 漆笠をさるよめ
梅よめて 寝くと 漆るよめ

母恋
女 夢
涼 箒
青 藍

松花

大木かえびも 志あふや まりの心
秋あう 惜まて ぬるや ねろと乳

上毛篠 矢 林
露 沾

古今所歌別集卷之二

日の浅く赤も赤あううめれふ
新黄の地よあせりうめれふ
梅うまよきて用たのうけり
ものそくあううめれふ
朽木も二日やうめれふ
爪踏とまううめれふ
よの文記の画ふうめれふ
倫性も強るうめれふ
かううめれふ
天水の梅もうめれふ
うめれふ

祇 百 若 祇 以 罽 日 紙 罽 吟 女 冢 苑
祇 百 若 祇 以 罽 日 紙 罽 吟 女 冢 苑

風笑ハの内かういやうめれふ
その戸の滞りつけうめれふ
まげてまうめれふ
杖ついて他へうめれふ
梅もやうめれふ
セハハハ老樹のくせや梅のふ
梅もやうめれふ
あううめれふ
凡もあうめれふ
飛ううめれふ
うめれふ

破 一 東 東 曲 文 滄 江 正 朝 冥
破 一 東 東 曲 文 滄 江 正 朝 冥

古今集卷之二

一つツ元二つ多しやう先のはらふ
伏挿の道も異なりいめれふ
梅もや機の中よりもてを
さしれて後より持やうめれふ
あはれも辱してうい惹んて梅の心
梅実や紙格もゆるる水のうき
あらぬまで数えやうなういめれふ

柳やな

よりゆきの雪と動りたるぎうれ
浦中におりやれ柳うれ

上全抄
女雨
一 蕨
一 紅
一 雪
一 梅
東起

破了
た
馬

根をいいて多しやうめ柳うれ
何いとつ約としせぬやちぎのち
樹叢のまをとうり柳うれ
節骨もよきさのゆるマもぎうな
遊ばせて樹よちやぬやちぎうれ
たうれてしんかかせバ柳うれ
年賜と廻してらむの柳うな
花さぬ方とまほめさる柳う
そこのまで水のつれづら柳う
蜘蛛の網もまける日もある梅う
霞川も子めてえせらやちぎうれ

素園
梅海
兔承
茂秋
岸病
古由
一青
麦林
吐涼
希因

古今集卷之二

古今和歌集卷之二

花の柳と凡のゆきをさくら
 青柳のぬれてかむマ 水車
 まねやふれておの山の形
 楊子ハニ節くくいてマるぎうれ
 目とつらつ話ハやぬマれまうれ
 正なるものゆきねよやなぎうな
 正面といふ所もおて柳 うれ
 省へ先振えんで居る柳うな
 冠しこいでハ 正もやなぎうれ
 水原のちりえせくぐる柳山
 尾棟よきのかくつけておく柳山

一 漢
 百 舟
 津 川
 五 葉
 祇 堂
 汶 之
 女 扇
 女 扇
 武 山
 巴 丁

ちりくぬ地をのちく柳う
 曳よせてる奴のけく柳うれ
 新津紐とつれて葉よなる柳う
 おーあひの備眼をよてきぬ柳山
 河苗のそへふさがるやなぎうれ
 空へまて冥よくとやなぎうれ
 雪ハツキ山のたききおろせバ柳うな
 程樹をのまうしなるぬ柳うれ
 紙をみて楊の速よやなぎうれ
 解魔法師のねらるる柳山
 擗分の後歯と投きて柳うな

双 花
 勒 文
 兔 士
 起 風
 鳥 中
 烏 林
 の 宅
 乙 路
 杉 町
 漢 寺
 川 父

古今和歌集卷之二

つめくさきところへて長るやまぎら
早崎のを記と通して柳う乳
薫くハ本末知れぬやまぎら乳
たう西へ凡おしうけやまぎら乳
石燈 カキタリ 挑 カキタリ 柳 カキタリ のな
を棟りて筏のたるやまぎら乳
山城よ水あうくくやまぎら乳
庭ぬ多とりえてまぶ庭る柳う乳
庭で カキタリ のるぐさむやまぎら乳
ま柳やみとむいてつれてり
交通堂よ海 カキタリ のこまうぬ柳う乳

香阜 カキタリ
巴夕 カキタリ
来儀 カキタリ
巴崎 カキタリ
素筏 カキタリ
雨 カキタリ
島浪 カキタリ
亀文 カキタリ
美魚 カキタリ
壺 カキタリ

吹やめハ神よゆうもき柳う乳
晴天 カキタリ しうて障ぬ柳う乳
暑 カキタリ なるう敷て見てり柳う乳
燈 カキタリ 飛の肩もるるやまぎら乳
幕とれハ伸 カキタリ のち カキタリ なる柳う乳
入 カキタリ いて庭流のあひるやまぎら乳
ま柳 カキタリ や カキタリ ぢ カキタリ ち カキタリ ら カキタリ が カキタリ ち カキタリ て カキタリ 羊 カキタリ の カキタリ と
柳花 カキタリ よ カキタリ 一 カキタリ 丈 カキタリ 盗 カキタリ む カキタリ や カキタリ ま カキタリ ぎ カキタリ う カキタリ 乳
猫 カキタリ の カキタリ 身 カキタリ 勤 カキタリ して カキタリ 足 カキタリ 敷 カキタリ や カキタリ る カキタリ さ カキタリ ら
八九百空 カキタリ て カキタリ 何 カキタリ なる カキタリ や カキタリ ま カキタリ ぎ カキタリ う カキタリ な
海 カキタリ へ カキタリ ち カキタリ ら カキタリ 肩 カキタリ へ カキタリ う カキタリ けて カキタリ 柳 カキタリ う カキタリ 乳

玄 カキタリ
魁 カキタリ
秋 カキタリ
青 カキタリ
白 カキタリ
枝 カキタリ
由 カキタリ
府 カキタリ
凉 カキタリ
芭 カキタリ
蕉 カキタリ
星 カキタリ

古今和歌集卷之二

二月堂行 にぐはつどう

あえり氷の傍れ 履のおと

芭蕉

釋奠 シヤクテン

けふ日ハモクしど 是いねじ
祭のつる 門も入て 柳の風

破了
五巻

荻能 たき

傍ハまぐ 荻子 水衣

涼衣

祭出れ 宗女 マモ 子の 柳より

全

おとりのは マけくき 後継 草花上 去路

涅槃舎 チハンヤ

洞でも 兀るくごし 涅槃 像 兔士

多の マ 模し 涅槃の 枕とと 百川

けむりの ハ 吼る 顔あり 涅槃 像 香今

何年の 寛き 扉 涅槃 丸 洞居

涅槃 舎や ぬまごで ちぬも 古山

きあがる 町や 涅槃の 麻が 大阜

ねんころ マ 身と ちめても 鳥 鳳 入楚

涅槃 舎を マ ちり 柳子 入つ 山 柳

古今和歌集卷之二

古今和歌集卷之十一

水口みなくち

まゝあけくほてあひ口あふくれ

本巻 國南

初午まつま

まつ午アうぐいさうく沖のち
沖のちア梅ふ論カキハまゝくをハ
まつまアささきかゝハ梅をうり
沖のちア梅ハあをし沖をうり
をりあや迷ヒ子もなくさるか
おあやうちあち梅子口をうり

江戸 超波
江戸 涼伊
江戸 祇徒
武海形 柳居
江戸 伊山
江戸 百文

勝夜おが

おあマえさげくあ梅をうり
おあマあハ寐てあぬささる
おあマ名のあさうれ軍ささる
おあマリくが皆 新ぼうり

素園
万里
江戸 龜成
新橋

勝月おがろ

うぐいさのあは梅あや勝月
えくけてし牛の一アや勝月
おあささる梅をうり

麦水
入楚
梅

古今和歌集卷之十一

梅

古今和歌集卷之...

ぞちへりゆ... 月
 障のあきさへハ寺ちう月
 柳うし屋るものありおぼる月
 志中のちあゆ梅やおぼる月
 血場のおれてるあり月
 彷徨ハこむむくマおぼる月
 思まう下ハ人ちうおぼる月
 水よをき度もき外おぼる月
 一りの人よ泣てやおぼる月
 ちいバおくれぬ伴や月
 池水のおなくち一おぼる月

春
 六柿
 一龍
 李小
 白枝
 見風
 十牛
 伴山
 雪郎

笑上風ハ起つておぼる月
 狗骨の人よおぼる月
 秋月... 月

西羊
 涼袋
 全

焼野のヤケ

猿人の逐おされる 焼中
 煙灰よ逃けけらる 焼中
 歌をよ一しええてヤケ中
 靴みの居よ知れぬヤケ中
 石割よ梅と花やて焼中
 紙の尾の... 焼中

双飛
 枝
 去
 琴
 燕山
 吳

古今和歌集卷之...

陽炎

かけろよ鼻あそめるやるは
陽をハク教のやろくは
陽をマ旭のく 道の付く
かげろよマ掬るもあそめる

涼亭
古路
古由
之六

紙考

よろくくくくくくくくくく
ころんでもくくくくくくく
大くくくくくくくくくく

乙路
破了
秋午

下りまいと 慧考ヤ いろのぼり
乳くも糸の出てありいろのぼり
中天よおほくくくくくくく
切てはて陸橋とまくマ紙考
凡山へのぐき日乳マいろのぼり
後より牛のあまマ いろのぼり
おろくくハ幣のくくく 紙考
吹くくくくくくくくくく

佳話
小尻
女文
素綫
危川
者谷
起鳳
得牛
徐来
素園

考化の丸

古今事類賦集卷之一

りまのま

里

わつこつあよ入きうなひびこ

素園

園い日の中よいくつもひむらう

涼の

栲くよてるるの定るひむらう

双虎

夕ひむらうまより出て

黄牛

月又ててそよかきうマ夕ひむらう

双羽

うらひものつきーのむむむらう

司雅

うらうらう既中の代流マ夕ひむらう

吳江

うらむらうまを隨のむらう

祇愛

うらむらうの出て

浮城

ちき日とア入つめらひむらう

西洋

下りてうらむらう人マ夕ひむらう

深奥

簾巻て船のまらうや夕ひむらう

見風

傘の背中てかくひむらう

柳四

ふまの巻よえあられてひむらう

吟風

昇日よ後あつめるひむらう

秋午

日の暈の裏でさくもる

計

日の上よ巻つてくれりひむらう

漢書

知更雀

あまうらや旭とのせそ

箕

こまうらや

ほ

字曾 漢名 未詳

うその夢柳の糸の松マキ 梅之

赤都牟之理 漢名 未詳

洞山の秘苑もささげねむい 維地

百千鳥

ハツの耳けつほりマヤチどり 小倉 呂く
さるがまの カキ 後でほり 上毛 百ふどり 文睡
大さりのさうか日マ百ふどり 冠子

鳥尾 ウツキ

妻恋ヤ行赤音ハ断木 周防出 東序
翁も梅ほりげえ 仙臺 桂夕
さよ又何ささささ 市川

鳥巢 ノリ

うらの糸ア 紫系 糸 ガ 糸 シ く ハ つて 曳 て とる
何の糸と糸 シ も シ さ シ り シ かん シ こ シ り とる
竹中輪 左枝 西羊

黄雉

子よせさしこいいて 君ミラましめ

常所かこ

まぐいー所とひのくまふりれ
あまないの冷さめてゆ所
尾よついでまきりくまの所
花踏ぬまハ 経ーゆらうり
少風のりらとまてかうのこま
冠かむり子

尾坪 野水

涼宇

笑林

一紅

冠子

燕つばき

しきるマつばきちりよ 瞬ミタキまきくゆく

尾坪 記候

濡ながう傘かの下り燕つばきのれ
漕こハリ彩いろもまらけ燕つばきのれ
粘ねり鳥サシ士の和わよハちらぬしきりれ
風アサ起オキの何なにもドえくけてしきりな
塗ぬちあけて汀つらのほろこ燕つばきの那な
白壁しろをを一ひとまをを燕つばきのれ
隙ひま解としつみのかろきや群ぐんつそめ
寄よ絆はり地ちと搦なてまきつぐめうれ
燕つばきアアよよててままよよハハああててり
托たく汗あせの先さきハハととままややひひつつそそええ
撒さちちりりつつままハハ里さとののああががて

江戸 羊路

巨井

梅志

哥カク

雄オス飛

祇棠

鳥林

入楚

女メ按

古今事類賦類集卷之二

古きへさのこりやむつづを先
芳まいものそてあつめぬ
生卵をつかんで煮る煮の卵
ゆきよ後作してハのく煮る
煮ヤとあるをいれバ是も煮ん

笄
琴
祇
涼
袋

水鳥帰

みつとぎ

葎カキヤの蓋ヤのいて 帰る 龜

大和
大呂

鹿解角

づか

あて芳 如ごろうマ たるのー

兔
海

ま 荷くハ今 智る 鹿マ おく 角

深
奥

猫草

ねこのこい

屋棟よ 扉てるるし かつら 猫の煮
煮るよ 下して 叶や ねこのこい
人と 扉の ねま ねや 猫のこい
唯ひく 煮る ねマ ねお乃 煮
煮ま ねて ねま ねく 猫のこい
拘楊と 洗田 ねあり ねこのこい
煮滴 ねゆる ねま 猫のこい
煮ま ねて ねま ねのこい

セマ 猪史
は 雨笠
サ 里史
サ 琴
サ 琴
サ 琴
サ 琴
サ 琴

古今事類賦類集卷之二

かく田のこころをさうで蛙々
 松葉よ日ハたさきまうしかをのし
 公家風ハものさぶらうて蛙々
 驚スツクのいよく止トる蛙々
 百姓の一かまへづ、このをのし
 涅槃く目を撮スリる蛙々
 飛ビぶよつぬ田もあるかりし
 夫ツ道チを四隅ヨでちが蛙々
 身をさあうみりて居るかりし
 乾物よ日ハくまされてかをのし
 照スる日よし油衣カッパたるさぬ蛙々

涼ス々
 起ヒ皮
 杜ニ谷
 固ク操
 祇シ丞
 立ツ赤
 汶シ上
 李リ北
 兔ウ士

鳴ナる糸のまこむかをのし
 夢ユいよいて奈る蛙々
 爬ヒ出デして突ツのあらく蛙々
 ぬのノ一字撒サせて蛙々
 是コれハそれハ居ぬ蛙々
 水ミと出るさるハ蛙々
 方ハ常トグス女メのえ出デて蛙々
 花ハつらツ枝エも流ルる蛙々
 少シアツつらツ吊ツル桶バケよさる蛙々

柳ヤ居
 左サ文
 再ヒ可
 雨アメ
 律リツ為
 素ソ笈
 漢カン遠
 采サイ如
 采サイ

田標た小

けマイよれかきりりの
 湖の敷とをなしてしるし
 霧の海を霧の海やふりし
 づつれてまふらふまふらふ
 本の節と吹く心してのりし
 こそくはよれと指やふりし
 耕しと垢まつまつく田りし
 足あくと酒りて棲田りし
 目よとぬれびマうちう田り採
 蕨のくくくしてなまふりし
 やふない早くと見せる田りし

金双飛
金南蕙
江三
 素筏
 雨笠
 袴了
 桐糸
秋馬六

めまのるい家とおゆるるるりし
 栗北

現レレ

水底一尺さし
 炊とこ
 炊採獲のりしや
 ことし
 東りてハこハい
 地橋や
 炊とこ
 やまのとて湖の溢酒下炊とこ

上毛涼楓
後五路
西仙
 桐原

寄居虫が

雙腕ハカク保ウガしてうて
 虫の居ちし
 冷れし博しけめる居虫

古今行歌月題集

神奈一扇、
精ろり、是ハかくし、てかりな、

今寄風 のうせ

まよ、
今、
く、
つ、
う、

武原 月
三利 梶 系
る 梶
永 桂 洲
戸 玉 負
海 濱

釋圃 のうせ

圃うちのおん、
を、
は、
圃、
は、

涼 袋
玄 路
全
鬼 掌
猿 四

秧田 のうせ

た、
か、
秧、

涼 袋
玄 路
全
鬼 掌
猿 四

麻蒔 あまき

麻ちきやあろし モラ 焼みてゆてやる
あけちきやゆがめハ チ 呵る老淨し出る
不 孫

播種 ちよち

あらしぬめのハきさうう程おろし
紀伊高野 鬼塚

蕨 あざ

物ささくちやうまきて 唇の蕨乳
形 乙 踏
麴の尾と捕もづも 王 才
糕ふ加振ハえとけぬ 美作 青 千

ねん一伝ハのぼつて い 郎
中のおいんよおらるる 蕨乳
云あてくえとく 西 羊
一つうちさーあけて 吳 燕

筆頭菜 つくり

とどめうら 下 斗 光
をるハゆがこみ 秋 午
かけらよの今も 李 趙
降ふたのめ 鳥 枝
少やうく 安 里

歌 日の寺子よきりつくり
深島の跡よお初てつく
乳母の持袴よちまつく
足の泣くハ娃マつく

江

杉戸 左 袴

笑 林

し 路

蒲公英 たん

いほりマ一あうけてきのゆる
たんりマ瓢の口へきてゆる
しりマ花うらへてのびあしり

ま 穂 海

双 飛

雲 郎

春菊 とんまき

あづまきく

まゝ葉マせん 南山と 笑ハせり
をうてしかりける道マあづまきく

北

江 竹 支

菜花 なな

なのおマ紙の冠毛のわゆるとき
あれたらの車ズーマ牛のしち
なのおれマゆりききなのら
なのおマいつあ生の麦をけ
なのおマ寝る日とかまうてる
なのおマ花てハくよきさのし

秋 午

去 路

祇 巫

雲 和

麦 舟

古今行歌月題集卷之二

古今月歌明集卷之三

珊瑚菜

ぼう

胡^ニ菜^ン菘^ン拔^ンよけんのてう^ン務^ンりよ^ン沙

京 曉山

野蒜のび

稗圃^{ハタケ}まの味^{アジ}おろ^スくあれハ^ハや^ハの^ハり^ハふ

肥後 仙水

葛菜

の^ハの^ハも^ハそ^ハく^ハ減^ハマ^ハち^ハさ^ハ圃

然本 孤舟

藕堀ちまのねほり

蓮^ハ根^ハマ^ハ芝^ハニ^ハ三^ハ本

上で^ハほ^ハら^ハぬ

東 女鹿

蓮^ハ根^ハや^ハ堀^ハ換^ハち^ハよ^ハて^ハ系^ハよ^ハ赤^ハる

イセ 秋至

萍始生うきくさ

萍^ハマ^ハし^ハよ^ハも^ハ遠^ハよ^ハぬ^ハこ^ハころ

上毛 波

紫籜つのくむ

水^ハ多^ハの^ハも^ハ花^ハお^ハど^ハり^ハや^ハあ^ハの^ハつ^ハの^ハ
花^ハ永^ハを^ハま^ハけ^ハて^ハも^ハる^ハや^ハあ^ハの^ハゆ^ハ乃^ハ
行^ハの^ハい^ハし^ハ茂^ハへ^ハさ^ハう^ハあ^ハの^ハつ^ハれ^ハ
甲^ハ垢^ハさ^ハく^ハい^ハち^ハい^ハマ^ハあ^ハれ^ハれ^ハれ^ハ
浮^ハ石^ハの^ハ押^ハへ^ハて^ハや^ハあ^ハの^ハつ^ハの

上毛 水
大田 水
成石
花の
全
ち
路

古今月歌明集卷之三

四十一

水穴あけて流もやあいのつれ 小宗 謝舟
総子の家へ出さう あーれはの 帯河
東の右とこれとよ山一あいの 城棠
うーとーとまるハんくあいのつれ 全
さしみうれ白苔蒲ぞ紫籬 山花
水と出さるゑのまぐぐアあれの 漁を

菊秩きき

秩で先りいさめくう葉つくま 菊河

菊卜裁きくうえろ

きくうえろ

かのころて花アと菊と 植々へる 女地 海
色品とんよ 葉のふ根 うれ 祇 巫

胡顔子こげんこ

ぐい一本 秧田た時の色てちう 女大 崩

芥菜かさい

かーちち 一口るのむせてら 女大 方

野蜀葵のしよくい

お子板へ文ねてくる いつぞうれ 女大 固

辛夷 シビ

幣 ヒ ちり 花 ハナ としる トシル たり
草鞋 コウゼ 大王 オウオウ の ノ 知 チ り リ 元 ゲン や ヤ 幣 ヒ 辛夷 シビ

小倉 文舟 フナ
江戸 舟河

迎春花 ウヰンチュウカ

こころ ココロ ざい ザイ い イ ハ ハ 若 ニホ い イ 物 モノ マ マ ラ ラ 枝 エ し シ も モ ぬ
黄梅 ワウメイ マ マ か カ り リ し シ 色 シキ の ノ あ ア る ル べ ベ き キ を

松前 白陀 ハクダ
涼海

連翹 レンセウ

きん キン け ケ う ウ マ マ 粉 コ 子 シ 交 カウ ら ラ んと ント 下 ゲ っ ツ て テ 展 テン

奈良 示行 シキョウ

山茶 サンチャ

あ ア つ ツ ぎ ギ き キ あ ア ま マ じ ジ り リ さん サン に ニ 接 ツキ ぐ グ える エ
折 オリ ル ル 時 トキ は ハ 花 ハナ の ノ あ ア む ム じ ジ く ク つ ツ ぎ ギ っ ツ け ケ
鶯 ウ の ノ 吸 スビ 殻 カウ お オ ち チ り リ は ハ ち チ ぎ ギ の ノ 卵 ラン
朝 アサ ハ ハ 花 ハナ 津 ツ 草 クサ ち チ たり リ あ ア う ウ つ ツ ぎ ギ
晴 ハレ を ヲ れ レ 枝 エ を ヲ ち チ に ニ も モ る ル べ ベ き キ 山 ヤマ
い イ と ト つ ツ 日 ヒ ハ ハ あ ア っ ツ ま マ る ル 山 ヤマ 菜 サイ 山 サン
葉 エフ の ノ 水 ミヅ 々 々 見 ミ せ セ る ル つ ツ ぎ ギ 山 ヤマ
後 ノチ て テ も モ ち チ 葉 エフ の ノ 拾 ヒラ め メ つ ツ ぎ ギ 山 ヤマ

邸 テ 坡 ハ
成 ナ ス
江戸 翅 テ 負 ネ
名寄 江 エ
汶 ヰ 上 ジョウ
武蔵 州 シウ 羽 ウ
上 ジョウ 路 ロ
一 イツ 麓 ソク

新婦のあしりてあるゆれ
あひらや眼よ恋のなき代
程こよ海と流るしりな
柳つ片アひらのなまよ
あひらや又ころんと
家ハ一十 壇よーい
かまろろマうよ小おのり

涼字
何坡
六柿
貫至
岩洞
青藍

園新

近退よ人のちれマ
晴用の新よ矢服マ

去路
芳楚

氣のつよい人後り

長嘯

潮盡

中 天へあまぶあけて
静鉄の破着とくく
森ころの形よ本ま
蛤よ麦葦のま
巨航一撈の合ぬ
んくそよまきのく
陽倉よもめのそ

兔士
涼空
洗舌
百卉
巴山
丁氣
ふ車
破了

おろしハこもるがハまぬぬをい
 足もく夕日のうふーほいぬ
 蝶くのつまごころ展るまほひ
 若うの火足一はくほいぬ
 足弱の瀧うもろるまほひ
 りさうちにな系まろるぬあぬぬ
 青柳の泥まろるまほひぬ
 庭つ飛つ詩ハまうてまほいぬ

破採 カヒガ ヒツカ
 介殼の系架もほて硯 依系
 秀律

一の由

あぶ

尾

吹青

毛郎

乃

芭蕉

ち路

鳥賊ウカの事拭ツいてぬハ也硯ハいハ柳カ

妻メをハぬハのハ

栗のせがのかこち敷ハえハれハどハも
 栲ハまハくハやハりハむハ矢ハまハあハのハをハぬ
 奥山ハへハくハれハぬハやハれハぬハも

踏フ者ハ あとき とむ

まハひハてハほハむハ店ハマハあハとハまハをハ踏ハこハら
 全ハ嶽ハ

壬生傳奇 げんまき

力の収い方々婿むこ之壬に士のの担か

上毛ノラガ
半水

市身いちみ拭ぬぐ

困こぐのるるやあきはめめぐい

おあす戸
鳥道

順じゆん筆ひつ入い

早はや入いやもづるもいのこらようう

後みぬ本
涼翁

大おほいまらい入いずもよもハまままぐぐ

花雷

早はや入いママおおしし踏ふみもろろフフーー

平し郎

法ほつ花はな糸いと
たままづあ
のまろ

あありりくくふふやや陰かげめめててるるのの糸いと 涼翁

煙えん塞さい
ろよ
さぎ

煙えんささぎぎやや此こ先さき陰かげハハおおりり 涼翁

煙えんささぎぎややささいいおおささくくほほるるこころろ 涼翁

ううささぎぎにに梅うめのの出でててゆゆくくここのの山やま 涼翁

長目ながめ
なが
まひ

ちちろろきき日ひやや早はやかかららハハおおるる 飛とるる川がわ 涼翁

ちちろろきき日ひやや早はやののああるるよよ紙かみととままりり 涼翁

ちちろろきき日ひやや早はやのの梅うめ 画かけけくくーー 涼翁

細き日しきしこむ不破のせき
西 孫み孫 城
もき日マカぶりとこのむしき
西 孫 城
もき日マ桃の白く見て老とせし

田代化為如どんそけして

白う化をふふ愛てううれ
改上
紫クナハシよまぶくものくるううれ
入 楚
さくはくとく鼠しへらぬうづれ
涼 帝

麦 穂むぎこ

居所の踏れろくく 麦うばら
仙 侶ふらふらと大ま

鳥 沖 雲とりうぐいす

多たくうれもそに沖いりくうりそそのま
一 言

琴 島かみ

えろくせうこにめぐころきこぐ琴島
足 科 南 斗
居所よ始末のおよむかいこくれ
玉 負

梅 介うめがけ

汐波の齋うしなもちうまやさうかい
相 介 仲 連
拾ふてし指あかふさくくむ
足 科 花 石

蛤ハ蝶々としてあつてはくううい

双飛

櫻棘鬣矣さくら

あつる海村のちやさくうみ矣
つゆあつるものさやさくうみ
落のさよぐくちあつさくうみ
あれば桜鱗が似たりさくうみ
釣竿てめぐるやういの橋

其の
通

可由

三

旭溪

梅奥はく

流はくあつてはくうみ

東起

細の月と流るハ答れさくうみ

城
はく

夕溪あけ

逆さまよ底の流る小あゆみ
わうあつるの魂さくうみ
篝燈と散てはくハ小あゆみ
あゆマ花の枝に昇るま
日あつるハ水も芽と出ま小あゆみ
細の月の流る小あゆみ
あつるあゆや氷のうこくあゆみ
水の痕跡あつてハのぼる小あゆみ

玉

涼

西羊

阿坡

帆

天

上 染のぼり ヤリ

何なんとといいふふひひつつめめややののぼぼりりややれ
一いすすのの萌もハハたたややーーののりりややなな
深タキ布キととららてて子こんんめめののぼぼりり染シ

横春ハル帛ヒ
全ぜん子こ葉エフ
は子こ葉エフ

紫花地丁むらさき くさ

穴あなののふふののこころろししににちちききのの葉エフはは
大おほるるのの空そらややももちちききれれくくはは
深ふかみみののふふににちちききれれくくはは
氣きああけけぬぬ女メのの様さまややももちちききれれくくはは

双ふた羽は
お羽は は は
は女メ
涼すず字じ

ふふののいいららととららああてておおややももちちききれれくくはは
地ちぢぢののいいららししああままののももちちききれれくくはは
地ちぢぢののいいららししああままののももちちききれれくくはは
凌しのびび日ひのの入いりりるるももちちききれれくくはは

戦いくさ石いし
舎や舟ふね
希まれ因ゆゑ
涼すず字じ

荷花はな葉は草くさ かん げ

被シタりりととももちちききれれくくはは
根ねととりりれればばちちききれれくくはは

花葉ハ 葉 葉
其その青アヲ
熟う子こ

茅かや鍼はり つ な

ゆゆののええももちちききれれくくはは

起おこ皮かわ

甘くとて火カ字イのくれつイまイ山イ 怜也

氣麴イのイ

ゆイおイふイむイこのイ字イ子イやイもイこイまイ
艾イよりイしイ花イぶイけイるイ一イけイあイくイ信イ
雨石

女イ湯イ助イ

花

白頭翁イ

まイゆイえイまイしイあるイよイ野イ物イのイさイれイ了イ
まイいイしイ二イつイろイくイてイまイゆイつイくイまイ
東起

麦林

薊イ

あイぞイ

痒イるイにイるイのイうイじイくイあイきイいイしイ
挿イてイろイうイ標イとイ披イちイあイはイいイしイ
おイりイいイつイくイ青イ線イ花イのイ恥イマイふイ薊イ
挿イ花イのイあイりイおイきイてイあイきイいイれイ
白枝

出イ麻イ三イ

島友

出イ女イまイいイんイ

白枝

木瓜イ

水イにイへイまイいイまイりイりイ木イ瓜イのイをイ
たイうイゆイるイまイのイ陽イマイがイけイのイをイ
芭イのイ根イのイあイるイ色イマイばイけイれイ花イ
西羊

出イ三イ楚イ

不イ三イ

西羊

裙帯菜イ

いき湯に雲の帯解くわらわし

伊豆伊豆 杉 倭

芋種いんじゆ

新芋ア化さぬ 蕨々 行く居る

紙 旭

桃もも

蹴くたげて呵かアにあらやりのふ
何ドなるもとけくゆくし桃のふ
もよぬふふもしたりのふ
おほーてくれハ風ありりの花
かこもせて白と休むアまのたま

涼いせ鬼
涼ド唄
希因
一氣
素茂

桃さくや園の膚かの枝えさくぞん

歌の一さく海一 かのたまれ

残れのまき 残れのまき 桃のふ

席まて 桃のふ 池いやりのたまれ

葉はむけ 桃のふ 桃のふ

行ゆく 桃のふ 桃のふ

一里出いておちまやりのたまれ

あましく 桃のふ 桃のふ

老おく 桃のふ 桃のふ

麦圃むはたの歌ありまのたま

麦あ枝
珠たま李り
其ま葉は
涼すず唄
雪ゆき叩たた
文ふ帝てい
双ふた飛と
李り小こ
雪ゆき郎らう
眠ねる
回まわ山やま

まごさき陸のきこめやゆき
昭のきこくはよむくしゆき
おらぬ氣よあてしゆきやゆき
蒼天つとつく庭やまゆき
用世おつてしゆきよゆき
湯ありゆきけしゆき
水く出てあつても苦しゆき
とどろ子のゆき低やゆき
怖うなゝのゆきやゆき
首途とせしのゆきさゆき
面々う位持とつとゆき

見風
柳中 葵亭
下孫大田 琴相
涼亭
さう 温故
さう 青坡
さう 映棠
さう 相井
下孫若里 玉斧
下孫若里 子永
下孫飯塚 野若

形りの橋おまきくやゆき
凡ハまきゆのおほしやゆき
まき人のゆきくまきゆき
徳ゆきくまきゆき
洗面く紙のまきゆき
まきゆきくまきゆき
人のまきゆきゆき
又ゆきゆきゆき
吾川へまきゆき
山橋ちるや小川のまき

可也
第牛
妹瓜
百奇
素園
洗面
さう 麦舟
下孫若里 文曉
下孫若里 屏風
下孫若里 燈籠
下孫若里 智月

滑ておこやうなまきあうりさく
 何よきれて踏くきーりさく
 石粉もあきくちあなハさく
 我ころちあかよあやらさく
 かりれハ人の背戸くらさく
 あもたうる先たせとのやらさく
 何めえこそよ本履のあやらさく
 紅まほしく燃えぬ曲突やらさく
 吹らおこて折よ一そやらさく
 焼く人のあやらさく
 驚熱とよきれてあやらさく

素
 浪平
 東起
 白枝
 全
 涼帝
 希周
 大
 子代
 景氣
 素園
 素益

ねんハよの月もあうりさく
 待て折む若の偏やらさく
 かののほしとつらぬらさく
 嗚あでうらあの一さく
 山既あああらさく
 待ハうきおとさく
 是あてきよとあつさく
 花のあるあおでらさく
 りせよせてあうりさく
 弘法のこよよ一さく
 修くよきらあのおさく

如本
 鬼海
 祇聖
 玉美
 涼帝
 一子
 希周
 し跡
 汶上
 存義
 紫

古今行状月願集卷之二

二六

清輝ハハゆく見ヤ山さくく
 せしむりくく^阿くくえせて山様
 秋るものくく^{ク女ビレ}くく^{ク女ビレ}
 疲^{ク女ビレ}りて^{ク女ビレ}くく^{ク女ビレ}くく^{ク女ビレ}
 知^{コメドリ}更^{コメドリ}花^{コメドリ}の^{コメドリ}ち^{コメドリ}ら^{コメドリ}て^{コメドリ}遊^{コメドリ}る^{コメドリ}様^{コメドリ}
 翁^{コメドリ}を^{コメドリ}よ^{コメドリ}ハ^{コメドリ}向^{コメドリ}ら^{コメドリ}ぬ^{コメドリ}と^{コメドリ}ゆ^{コメドリ}せ^{コメドリ}神^{コメドリ}さ^{コメドリ}く^{コメドリ}
 翁^{コメドリ}を^{コメドリ}よ^{コメドリ}ハ^{コメドリ}向^{コメドリ}ら^{コメドリ}ぬ^{コメドリ}と^{コメドリ}ゆ^{コメドリ}せ^{コメドリ}神^{コメドリ}さ^{コメドリ}く^{コメドリ}
 神^{コメドリ}さ^{コメドリ}く^{コメドリ}く^{コメドリ}く^{コメドリ}く^{コメドリ}く^{コメドリ}く^{コメドリ}
 老^{トシヨリ}大^{トシヨリ}の^{トシヨリ}も^{トシヨリ}ぬ^{トシヨリ}も^{トシヨリ}さ^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}
 別^{トシヨリ}法^{トシヨリ}の^{トシヨリ}室^{トシヨリ}よ^{トシヨリ}ち^{トシヨリ}あ^{トシヨリ}り^{トシヨリ}て^{トシヨリ}さ^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}
 後^{トシヨリ}せん^{トシヨリ}の^{トシヨリ}ま^{トシヨリ}た^{トシヨリ}ら^{トシヨリ}は^{トシヨリ}ゆ^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}

門
 一
 色
 双
 柳
 兔
 其
 涼
 全
 全
 涼
 兔

並^{トシヨリ}あ^{トシヨリ}よ^{トシヨリ}も^{トシヨリ}こ^{トシヨリ}一^{トシヨリ}晴^{トシヨリ}の^{トシヨリ}か^{トシヨリ}こ^{トシヨリ}水^{トシヨリ}さ^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}
 面^{トシヨリ}白^{トシヨリ}一^{トシヨリ}石^{トシヨリ}を^{トシヨリ}ハ^{トシヨリ}嫌^{トシヨリ}び^{トシヨリ}て^{トシヨリ}を^{トシヨリ}け^{トシヨリ}さ^{トシヨリ}く^{トシヨリ}
 消^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}
 け^{トシヨリ}里^{トシヨリ}の^{トシヨリ}ま^{トシヨリ}さ^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}
 か^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}
 山^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}
 一^{トシヨリ}日^{トシヨリ}の^{トシヨリ}そ^{トシヨリ}ハ^{トシヨリ}花^{トシヨリ}ア^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}
 元^{トシヨリ}山^{トシヨリ}の^{トシヨリ}し^{トシヨリ}ら^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}
 冬^{トシヨリ}も^{トシヨリ}し^{トシヨリ}ら^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}
 杉^{トシヨリ}糸^{トシヨリ}ハ^{トシヨリ}強^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}
 お^{トシヨリ}ち^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}く^{トシヨリ}

映
 李
 全
 白
 一
 全
 兔
 松
 双
 漁

古今事考月真集卷之二

おらうらうとあそびハ笑ひぬ山嶺
谷へおこきのをつれやもつり嶺
神根あつて追くよ花けむこそ
鶴と見てく道下アすけろく
まつ心ゆてゆやまつさく
毛纏よかえりて居るさくく乳
山さくく二人さくくハさくく
女ご推てのぼろやさくく
まゝこのハきよまゝの日アさくく
け厨よ一度うつくさくく
人あつちると傳出さくく乳

武村山 素花
武村山 子竹
伊賀 利雪
武村山 紫子
日村 桂露
一 嵐
素園
素柳
乙 踏
玄 芝

ももをやあそびよ早るさくく乳

武村山 素花

海棠

海棠ア天か新の子の顔のいろ
海棠ヤ襟ハ歩度と眼とさくく

希周
一 お

梨花

襟と混てしきー梨のそれ
路へおつれ除きめてちーのそ
目あそりとほれて白ー梨のそ
袋のるよ元てやたー乃それ

古木 左路
古木 左木
古木 左木
古木 左木
古木 左木

羊躑躅カスガのツノも種イてマドク丸
枝おれハ節くあありいハマ
莖ヒておれも少彦ハのあマるマ

古路
双飛
李小

金棣棠ヤサ

ヤサシぎの偏シマもあシめ
ヤサシぎヤシの鱗シまたシてき
ヤサシぎヤシの杓シよシつシいてシも
ヤサシぎヤシまシくシ困シぢシ井シ戸シもシぢ

長江
波シり
涼シの
希シ因シ

ヤサシぎのシ油シとシあシるシやシあシのシりシ
棣棠ヤ贈モまシらシくシ金シ符シのシあシる

胡秋
許六

瑞香花シ

梅ハのシ様シサシてシあシるシやシぢシんシてシけ
葉ハのシ戸シもシ沛シふシのシ香シのシやシぢシんシてシ花

士林シ
甲霸シ

本蓮花シ

彫ハりのシあシへシちシーシ本シ蓮シ花シ
けハいろシとシ尾シのシぬシらシヤシ本シ葉シ花シ

秋午シ
梧井シ

石菖蒲花

山向の山居よきりーろち花
やまざーのらえよ茶やろち不

武小麻中

桃

東記

紫荊花

下刷のちしや紫荊のちん天

竹形

里杏

笑靨花

蓋減とこれバおられてこめを
も風のちしおろちやこめを

武金傍

竹

竹

郁李

のちめ

飛ちがく池さく脚えぬこちめ
沖本の末社とありてこちめ

は

姑

里

玉燦

花さくー早るに居やに居る

武本居

車

五加

垣越しよ誰の影るうこぎくれ
老傍の傍のて居るうこぎくれ
下ヤととや撒げさるうこぎ

涼字

金

何

古今月真集

採茶つちマ

ちつき日のけさむびりよ茶つこい
まなごのうらへよせしめるまつこい
枝こーは祥タスキのつよある茶つこい

柳居 双飛 西洋

梅新生茶ウメの

う梅の又つゆてころ茶つこい

映石

紫茶ムラサキ

り花のほみあやうぢのそいれ

吾仲

小ぼりまにまきてむらやあちのふ
栲カの何ゆよハめれてはあぬのふ
ほハ茶茶てあるやうぢのそいれ
栗ス氣のよて遠くか茶やあちの花
ぢぢのいんのぢマあちのそいれ
杉スギ凡のわあうよあるやあちのふ
ううりれて日ハあまうりあちのそいれ
此コノ茶のふくらむてはあちのふ
服ウツてはあまよツ茶セあちのふ
下シタ崎のむいり口ありあちのそいれ
午ヒルぢうくも又一日うあちのそいれ

祇正 栲カ史 一ヒト尾 涼スズシ茶 茶チ園 全ツ 竹タケ活カ 柳ヤナギ枝 百ヒャク川 風カゼ奇キ 根ネ

あまのふもろて侍る後れり
の葉をのかりりちりちり
手抱へ腰を解くうらむ乳
閑伽架の上よハ恋であまの乳
山寺の塔へはさりあちれ花

素
梅原
其
一
湖

春夕たるの

なべろよあふ山あれども
さびさしころくカヤものり

下
五
綾

暮春たるの

風もや入るれりものり
まよよ凄きよ一の黒布やものり
りもや一枝麻のこもれもの
三井ちへ陸はらうてもるぬ
ゆもや下移るるれり山
まのふれ蛙や鳴ものり
目の見ゆるるまらうものり
塔ののまぐりてまらうものり
未了れり茶のけやものり
我ものふ踏てもはらうものり

斗
東
希
桃
也
甚
涼
七

古今行大月真...

六十二

小泉邑
大泉邑

吸露菴藏板

